

令和4年度における経営協議会学外委員からの意見への取組状況

学外委員からの意見	取組状況 (意見についての検討状況, 意見を基に具体的に実施した取組事例)
第123回経営協議会 (R4. 6. 16)	
(1) 【協議】 令和3年度年度計画の実施状況に係る自己点検評価書	
<p>① 計画を立てる上では、達成が容易でないチャレンジングな内容のものが望ましい。また、第4期中期目標期間評価における意欲的な評価指標についてもチャレンジングな評価指標の設定をしていただきたい。</p>	<p>金沢大学未来ビジョン『志』において、将来を見据えた新たな制度や組織の創設等、チャレンジングなアクションプランを設定した。第4期中期計画では、15計画31件の指標を設定しており、そのうち11計画19件が、新たな取り組みの実施等、チャレンジングな評価指標となっている。ご意見を踏まえ、評価指標を再考し、全国初となる取り組み等を加える等、さらにチャレンジングな評価指標に変更した上で意欲的な評価指標に再申請する。</p>
(2) 【協議】 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書	
<p>① 第4期中期目標期間は、第3期中期目標期間に実施した様々な改革を実質化し、着実なものにしていくことが求められる。</p>	<p>第4期中期目標期間においては、第3期中期目標期間に実施した改革を元に、金沢大学憲章に立脚した未来ビジョンを目指し、着実にアクションを実行していくことが重要である。このため、策定した「金沢大学未来ビジョン『志』」に掲げる27のミッションと個々のアクションを着実に実行する。令和5年6月現在、未来知実証センターの創設、金沢大学発ベンチャーキャピタル創設に向けた準備、教員及び事務職員の増員等、着実に教育研究等の機能が強化されている。</p>
(3) 【その他】 金沢大学の広報活動、基金活動等	
<p>① 報道で取り上げられるような大きな発見などは、その内容を題材としたより大きな広報活動につなげることが望ましい。</p>	<p>報道で取り上げられるような大学の活動は社会的に興味を持たれるものであるとの認識の下、PRの対象に応じた手法により戦略的な広報活動を強化する。Webサイトおよび広報誌「Acanthus」での広報に加え、令和5年6月現在、本学研究者が研究に打ち込む熱意や志を紹介する動画シリーズ「Aspiration-志を持つ者」の制作・公開、研究紹介を主コンテンツにするInstagramの新アカウントでの情報発信を既に開始している。また、令和4年12月には英文ニュース雑誌「TIME」、令和5年4月には英国科学誌「Nature」で本学の紹介を行った。今後もPRすべき対象者を強く意識し、広報誌、Webサイト、Youtube、SNSのメディアミックスを展開し、戦略的な広報活動を行っていく。</p>
<p>② 基金活動では、新聞報道等に加えて、学内外の多くの場所に基金箱を設置するなど積極的な展開が必要である。また、基金の振込用紙などにおいても、より多くの振込につながるような工夫ができるのではないかと。</p>	<p>学内外への積極的な展開をさらに推進していく。令和4年度学位記・修了証書授与式及び令和5年度入学宣誓式では、金沢大学基金ブースを設け寄附の呼びかけを行った。特に入学宣誓式では、新たに「学年暦入り金沢大学カレンダー」を寄附の返礼品として用意し、これまでに基金による支援を受けた現役学生と共に、寄附を呼びかけた結果、約3時間で約200名の保護者等から総額46万円超の寄附があった。また、基金で使用している振込用紙に関しては、他大学、他団体の情報収集を行っており、好事例を参考に今後見直しを行う。</p>
第124回経営協議会 (R4. 7. 21)	
(1) 【報告】 令和5年度概算要求	
<p>① 女性が活躍できる環境を整えることは非常に重要である。人件費の要求を検討する上では、ダイバーシティの観点を盛り込むことが望ましい。</p>	<p>ダイバーシティ環境の向上は、本学の研究・教育・経営体制の向上において非常に重要であると認識しており、金沢大学未来ビジョン『志』でミッションの一つとして掲げ、実現に向け取り組んでいる。概算要求事業においては、理系女性への一体的なキャリア支援として、令和6年度入学者選抜から理工学域に女子枠特別入試を導入し、理系女子の入学を促す。また、在籍学生を特任助教として雇用する若手研究者育成制度を創設し、女子学生枠を設けることで、女性研究者の育成を後押しする。</p>
第125回経営協議会 (R4. 10. 20)	
(1) 【報告】 令和5年度概算要求	
<p>① 施設整備費要求において、評価の向上が見込めない事業に関しては、当該事業の見せ方を変えていくなどの工夫が必要ではないかと。</p>	<p>今後の施設整備の要求に関して、事業の見せ方の見直しを行う。具体的には、当該事業に関連付けられる近隣の建物改修又は環境対策等も絡めての要求など、評価向上につながる要因を含める形での検討を行う。</p>
第126回経営協議会 (R4. 12. 16)	
(1) 【協議】 金沢大学発ベンチャーキャピタルファンドの設立	
<p>① 自治体におけるスタートアップ支援事業との連携について検討いただきたい。</p>	<p>石川県及び公益財団法人石川県産業創出支援機構（ISICO）が令和4年度から開始した大学発スタートアップ支援事業に対し、金沢大学として参画を開始したところである。令和5年度には、当該事業においてコンソーシアム創設が計画されているが、金沢大学発ベンチャーキャピタル（VC）としてもこのコンソーシアムに参画し、スタートアップ・エコシステム構築に向けた関係機関とのネットワーク形成を図る予定である。また、金沢大学発VCは北陸3県を支援対象としており、石川県以外の自治体についても積極的に連携を図る予定である。</p>
<p>② 大学発ベンチャーキャピタルにおいては、社会のペインポイント（ニーズ）を如何に集め、大学のシーズと結び付けられるかが重要である。</p>	<p>未来知実証センター（令和5年度設置）及び先端科学・社会共創推進機構のURAが金沢大学発VCと密に連携をとりつつ、社会のニーズに沿った大学のシーズとのマッチングを促し、スタートアップに繋げていく。また、地域の企業ニーズに対しては、北陸未来共創フォーラムや石川県・ISICO事業等との連携によって大学のシーズに対するマッチングを実施していく。</p>
<p>③ よりダイバーシティの観点を考慮した組織構成となることが望ましい。</p>	<p>金沢大学発VCには設立時取締役として女性役員を配置し、ダイバーシティを考慮した組織体制となっている</p>
<p>④ ファンドの特徴を出していくためにも、金沢大学としての重点領域を設けて押し出していくことが重要である。</p>	<p>当該ファンドは、金沢を中心とした北陸地域発のテクノロジーによるイノベーション創出を目的としている。とりわけ金沢大学では、この度採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」において社会実装を促進する施設整備を実施するとともに、未来知実証センターを核として、社会共創・社会実装の出口を見据えた大学知が集約されることとなる。上述の金沢大学発VCと未来知実証センターとの連携の中で、集約された大学知がファンドの特徴として押し出される形となる。</p>
第127回経営協議会 (R5. 2. 16)	
(1) 【報告】 金沢大学発ベンチャーキャピタルファンド	
<p>① 本事業では、シーズの目利きが重要である。</p>	<p>金沢大学発VCには、研究開発型ビジネスのインキュベーションや起業、経営、そしてファンドレイズ等の様々な分野の専門家が役員として参画し、大学の研究成果をスタートアップに繋げ、伴走支援を行っていく。</p>
<p>② 資金管理においては、透明性に留意する必要がある。また、投資判断を担う綿密な審査体制、適切な監査体制を整備し、透明性に加え、独立性を意識した運営を保つことが重要である。</p>	<p>公金の不適法な使用を防ぐ等の観点から、子会社の議決権の3分の2以上（設立時は100%）を金沢大学が保有し、当該法人の意思決定に金沢大学の意向を反映させる。一方、大学と子会社の組織体制を峻別し、当該法人の責任体制、経営判断の独立性を確保した運営体制を構築する。特に支援・投資委員会には学外者を3分の2以上置き、独立性を確保する。</p>
第128回経営協議会 (R5. 3. 16)	
(1) 【報告】 令和3年度大学等における産学連携等実施状況	
<p>① バイオマス・グリーンイノベーションセンターや未来知実証センターなどの産学連携の拠点や仕組みについて、企業等へどのように訴求していくのが重要である。また、強みとなる研究分野を効果的に発信する場を意識して構築することが必要である。</p>	<p>バイオマス・グリーンイノベーションセンターの特色である「産学連携」や「バイオマスバリューチェーン」等を企業に訴求し、金沢大学・ダイセル・他の民間企業といった3者での共同研究が生まれつつある。当該センターで開設した専用Webサイトには問い合わせ窓口も設置している。令和5年6月までに3件の問合せの他、本学教員からの紹介で東証プライム上場企業からも複数の見学依頼があり、2件の見学を実施済みである。また、地元企業を対象とした見学会（研究紹介含む）を北陸経済連合会の事業として実施することとしている。バイオマス素材活用による脱石油をめざした研究開発拠点として、またオープンイノベーションによるグリーンイノベーションを展開する拠点として情報発信の重要性を認識し、拠点の理念への賛同・共感を図るとともに共同研究等の成果の情報発信を充実させていく。強みとなる研究分野を効果的に発信する場としては未来知実証センターにおいて、実証研究の共通インフラを整備し、未来社会のショーケースを並べ世界中から最先端の人と技術が集まり、他に類のない「未来知実証拠点」として、企業との共同研究推進、地域の活性化及び社会課題解決の加速を図る。現在トップダウン型のショーケースが選定され、ボトムアップ型の公募の準備を進めている。また、ショーケースについても実物展示以外にWebサイトやVR、AR、メタバース等で金沢大学の有力な研究について情報発信することを検討している。</p>